

カンタンご使用ガイド

ごはんの炊きかた ➔ P.16~21 予約炊飯をする場合 ➔ P.22 浸し炊飯をする場合 ➔ P.23

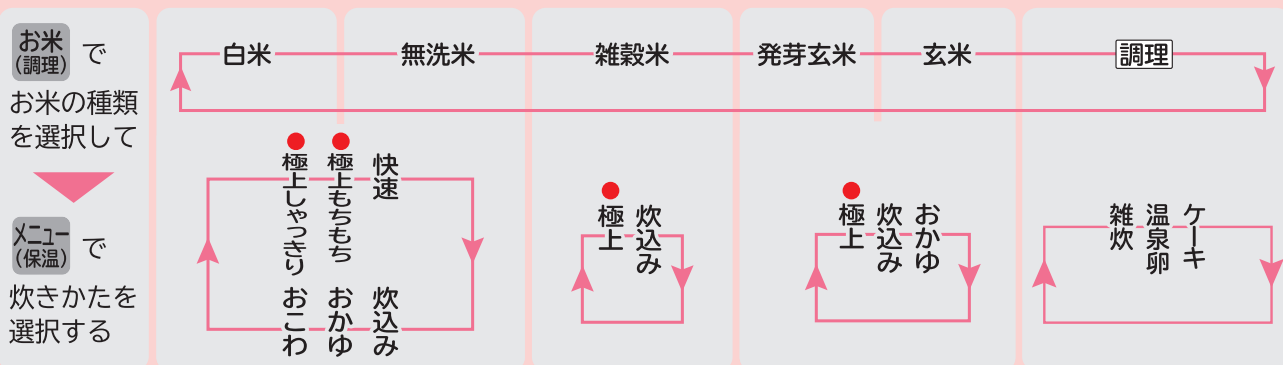
- 1 付属の計量カップでお米を計量する
(付属の白米用・無洗米用計量カップを使い分ける)
- 2 お米を研ぐ
- 3 炊きかたに合った水位目盛で水加減をする
- 4 内がまを本体にセットする
- 5 ふたを閉める(「カチッ」と音がするまで確実に閉める)



- 6 **お米(調理)** でお米の種類を選択して、**メニュー(保温)** で炊きかたを選択する

お米(調理) と メニュー(保温) の選択方法

- **お米(調理)** と **メニュー(保温)** は、押すごとに下図の順に切り替わります。



●印の付いたメニューは「少量炊飯」コース対応メニューです。

おすすめ

- 少量のごはん(2カップまで)を炊くときは「少量炊飯」コースをおすすめします。
上の図の●印が対応メニューです。**少量**を押してください。(一度設定すると記憶されます)

- 7 **炊飯再加熱** を押す ➔ メロディー(ブザー)が鳴ったら炊飯終了、自動的に保温になります

調理のしかた(雑炊、温泉卵、ケーキ) ➔ P.27、40~57

- 1 **お米(調理)** で「調理」を選択して
- 2 **メニュー(保温)** でメニューを選択する
- 3 **分** で加熱時間を設定する
- 4 **炊飯再加熱** を押す

- 加熱時間や調理のしかたは、取扱説明書・料理集 ➔ P.40~57 を参照してください。

調理メニュー

雑炊
炊
温泉卵
ケーキ

「調理」は
蒸気が出ます。

圧力式炊飯器だから

ふたの操作は 確実に

- ふたの前方中央部（手前側）を、ゆっくり押し「カチッ」と音がするまで確実に閉めてください。圧力式は密封度が高く、空気が抜けにくいので、ふたを勢いよく閉めると閉まりません。
- 炊飯後、ふたが開くのに少し時間がかかることがあります。

炊飯・調理中に ふたを開けない

- 炊飯・調理中にふたを開けないでください。（やけどのおそれ）
- ふたをやむを得ず開けるときは、「切（とりけし）」ボタンを押して炊飯を中止し、点滅している「**圧力**」の表示が消えてから（約30秒後）、ふたを開けてください。

水加減は 水位目盛を守って

- 水位目盛より多めに水加減すると、圧力を抜くときにふきこぼれる場合があります。水位目盛を守ってください。



炊飯・調理中に 勢いよく蒸気が出る ことがあります

- 炊飯・調理中は蒸気口に手や顔を近づけないでください。
 - ・炊きかたによっては炊飯の途中で蒸気が出ます。
 - ・炊飯・調理中に動かしたり、揺らすと、勢いよく蒸気が出ます。
- 炊きかたによっては蒸気が出ますので、壁や家具に蒸気が当たらないようにご使用ください。

炊飯・調理直後にふたを開けると つゆがたれることがあります

- 圧力式で蒸気が抜けにくいので、炊飯・調理直後にふたを開けるとつゆがたれることがあります。異常ではありません。つゆが気になる場合 → P.33

お困りのときは → P.34~39

修理を依頼される前に次の点および取扱説明書「お困りのときは」をもう一度お調べください。

こんなときは

ここを確認

ごはんが軟らかい、ベタつく、硬い、芯がある、生煮え、ムラがある

- 炊き上がったごはんは、すぐにほぐしてください。
- お米の量は付属の計量カップで計り、炊きかたごとの「炊飯できる量」を超えないようにしてください。 → P.16、34

保温でごはんが乾燥する、黄変する

- 長時間の保温や再加熱の繰り返しは、ごはんの乾燥やにおい・黄変が発生します。異常ではありません。
- 蒸気キャップ、プレート、ふた加熱板は忘れずに取り付けて保温してください。
 - 白米は、すすぎ水がきれいになるまですすいでください。 → P.16、24、25、37

使用時に
いろいろな音がする

- 炊飯・保温中など使用時には次のような音がします。異常ではありません。
- 「カチッ」と音がするのは圧力調整装置の動作音です。
 - 「ブーン」と音がするのは冷却ファンの回転音です。
 - 「ジー」または「カチッ」と音がするのは内がまのIH加熱音です。 → P.38

炊飯中にふきこぼれる

- 多めの水加減は、水位目盛の2mm上までにしてください。
- お米の量は付属の計量カップで計ってください。 → P.16、35

内がまについてのご注意

- 内がまを取り出すときは、両手でまっすぐ上に引き上げてください。片手で引き上げると本体に引っかかり、取り出しにくくなります。
- 内がまには炊飯・保温に優れた性能を発揮する特殊な「溶射打込み鉄製法」を採用しています。特殊製法により、内がまはやや重たく、外側はザラツキがあります。本体への出し入れの際には、本体とこすれて内がまにプラスチックの粉がつく場合がありますが、使用上の問題はありません。スポンジで洗って落としてください。また、流し台に底面を強く押し付けますと、流し台に擦り傷がつく場合がありますので、ご注意ください。



注意



- 内がまを床に落としたり、強くぶつけて、内がま外側の「打込み鉄」がはく離した場合は使用しない（過熱により内がまに接する部分のプラスチックが溶けて、においを生じたり、火災の原因）